

# 学校だより

## 2月号



平成28年 1月29日発行  
さいたま市立本太小学校  
Tel 048-882-3007  
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>  
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

### むずかしいことをやさしく

校長 井出 了一

3学期が始まってはやひと月、寒い時期ですが、校内には子どもたちの明るい笑顔と元気な声が響いています。この冬、前半は穏やかで暖かいと思いましたが、さすがに寒に入ってから本格的な寒さとなり、先日降った雪も校庭のあちこちにしばらく残りました。毎朝、寒い時間帯から子どもたちを見守って下さる地域の皆様、本当にありがとうございます。



さて、学校では今年度の締めくくりの時期が近づいています。学習もだんだん難しくなり、それぞれの学年で進級に向けてのまとめに取り組んでいます。このような時期に、子どもたちの教育に携わる者として、いつも思い出す文の一節があるのでご紹介しましょう。

「むずかしいことを やさしく、 やさしいことを ふかく、  
ふかいことを おもしろく、 おもしろいことを まじめに、  
まじめなことを ゆかいに、 ゆかいなことを いっそうゆかいに。」

これは、井上ひさし氏が立ち上げた劇団「こまつ座」の機関誌「the 座」に、自ら寄せた文章の一節です。私は、中学校の理科教師として少し慣れてきた頃にこの言葉に出会い、ハッとさせられました。どうも「教える」というのは、簡単なことを難しくしてしまうところがあるのです。(例えば「首都圏に雪を降らせる南岸低気圧には、コリオリの力を受けて反時計回りに風が吹き込む。」といった具合です。) 辞書を引いたら、かえって難しく書かれていることもよくあります。

井上氏が言う「むずかしいことを やさしく」ですが、他者に何かを説明したり教えたりしようとするとき、何とも難しいものです。中途半端な理解ではできません。難しい名前の法則や原理で煙に巻くようなこと(先程の南岸低気圧やコリオリの力など)が往々にしてあります。次に氏は「やさしいことを ふかく」と求めます。このためには、理解の深さだけでなく、それを表現し伝えるための最適な言葉を、最適な場面に配置しなくてはなりません。さらに続けて「ふかいことを おもしろく」ときます。優しくても、深くても、面白く(興味深く)なければ、子どもたちは受け取ろうとしません。

「優しく・深く、面白く・真面目に、愉快地」学ぶことの楽しさや、子どもとともに学び合う喜びを思い出し、初心に返らせてくれた言葉です。

#### \* 暦の上では まもなく春

2月3日(水)が節分、4日が立春です。「暦の上では…」などと紹介される24節季は、海上保安庁海洋情報部(旧:水路部)で、暦(こよみ)を作るために天体の観測や計算を行い、毎年発表します。(日付は今年のもので)

- ・ 立 春 (2月 4日) 春の始まり。寒さも峠を越え春の気配が感じられる。
- ・ 雨 水 (2月 19日) 陽気がよくなり、雪が雨に変わり、氷が融けて水になる。
- ・ 啓 蟄 (3月 5日) 冬ごもりしていた地中の虫が目を覚まし、姿をあらわしてくる。
- ・ 春 分 (3月 20日) 祝日 太陽が真東から昇って真西に沈み、昼夜がほぼ等しくなる。

